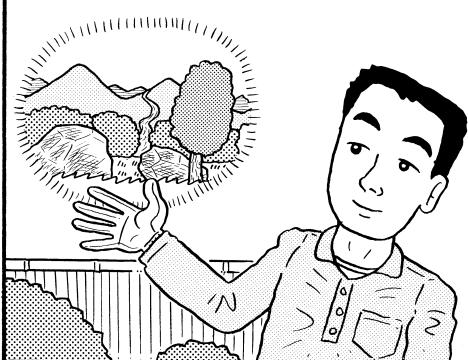


シリーズ「マンガ：若者からのメッセージ」

第41話 自然を相手に仕事をする者として



平成15年度秀作入賞 木村 友洋さんの作品を
もとに脚色を加えたものです。

画 しょざき のほる

自分は昔から
造園の仕事をしようと
考えていたわけでは
ありません。



何も言つてくれないと
いうことは
こちらで読み取る必要が
あるのです。

全体の印象、
葉の色 幹の状態や
時には枝を落として
調べ、病気の種類と原因を
見きわめます。

例えば植物には
何十種類もの病気が
あります。
人間なら言葉で
症状を伝えますが
木はそうはいきません。

原因をつきとめると
それに合った対処を行ないますが、
うまくいかないこともあります。
自分はまだまだと
反省しています。

また、ていねいに芽をたくさん
吹かせる剪定をすれば、

木は本当に止直です。
対処が合えばひどい状態でも
元気になりますし、
駄目な時はすぐ枯れます。

いろいろな家の木を
剪定させてもらい
経験を積んでいます。

翌春は
よく繁つてくれます。

だからこそ
毎日相手に
していても
疲れず
気持ちいいのかも
しません。

本当に気の抜けない
相手です。

逆に雑な仕事を
すると
次の年には雑な
枝ぶりになっています。

剪定という作業は
たくさんの物を減らして形を
作る作業ですが、
ない物を加えて形を作る
仕事もあります。

人の心を落ち着かせる、
山の風景や川の流れを
切り取つて何もない空間に
表現するのですから
大変高度な技術です。

何よりセンスが求められる仕事で
持つて生まれた才能だけでは
どうにかなるものではないと
思います。

それが庭作りです！
造園業の本業です！

一例をあげてみますと
石にも木にも
別の角度からの
別の表情というものがあり、
それぞれのどこを手前に
向けるかで全体の
仕上がりに変化が
出てきます。

人工的なものではありますが、
人工的に見えないように
自然な感じに仕上げます。
目標は本物の山や川の
風景です。

